

令和 7 年度第 1 回ふれあい座談会

主催	ふじみ野市手をつなぐ育成会
テーマ	会員が日頃感じている疑問や不安、要望など
日時	令和 7 年 1 1 月 9 日（日）午後 2 時～ 3 時 3 0 分
場所	市役所本庁舎 A 大会議室
参加者	1 8 名
市出席者	ふじみ野市長、障がい福祉課課長、学校教育課課長、広報広聴課課長、広報広聴課専任主査

《主な意見等》

広報広聴課長

少し早いですが、これからふじみ野市手をつなぐ育成会様との市長と語るふれあい座談会を開催させていただきたいと思います。まず、高畑市長よりご挨拶申し上げます。

市長

皆さん、こんにちは。本日は令和 7 年度の市長と語るふれあい座談会ということで、手をつなぐ育成会の皆さんには、日頃からふじみ野市の障がい福祉行政に対して様々のご提言をいただき、また、障がい福祉を進めるにあたっても様々なお力添えをいただいていることに心から感謝を申し上げる次第です。

これまでも皆様方の団体からは様々のご意見ご提言をいただき、ご要望も併せていただきながら、それを可能な限り実現していこうということで進めさせていただいているところです。

今回は居住するグループホーム等を中心に話を進めたいということもうかがっておりますので、限られた時間ではございますが、皆様と膝を突き合わせた中で、ふれあい座談会を進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

広報広聴課長

ありがとうございました。続きまして、本日の出席者を紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。また、本日は記録のために写真撮影及び音声での録音をさせていただきますので、ご了承ください。

それでは、ふじみ野市手をつなぐ育成会の会長よりご挨拶をいただきたいと思います。お願いいたします。

会長

こんにちは。本日は雨天で足元の悪い中、高畑市長をはじめ市の職員の皆さん、本当に今日はありがとうございます。毎年、市長と語るふれあい座談会ということで、時間を割いていただいて本当にありがとうございます。また、今日は会員18人で、半分ぐらいは役員なんですけれども、いつも以上に参加をしています。

さて、ふじみ野市誕生20周年事業ということで、育成会でも宿泊体験という事業を開催させていただきました。補助や支援をしていただきながら無事開催ができました。終わった後に行った参加者からのアンケート結果を障がい福祉課に提出をしておりますので、何か役に立つこと、改善できることがあればぜひお願いしたいですし、もし私たちに回答していただけるものがあれば、ぜひお願いしたいと思っております。

広報広聴課長

ありがとうございました。それでは、これから座談会に入らせていただきますが、本日は午後3時30分までとなっておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。それでは、この後の進行につきましては、手をつなぐ育成会様をお願いいたします。

司会

それでは、よろしくをお願いいたします。本日、皆さんに資料を配布していますが、「グループホーム（住まい）」を重点テーマにしております。また、添付資料に「宿泊・居住」というのがありますが、こちらは市の回答に、「その他の情報については、各グループホームへ直接お問い合わせください」「障がい福祉サービス事業所の紹介は市のホームページで公表していますので、ぜひご覧ください」と書いてあったので出力してみました。これはふじみ野市障がい者総合相談支援センター（りあん）が公開していました。今回の質問というのは今年グループホームに入られた会員の方が食費が高いのではと感じていたため、事前質問として出しました。回答としてホームページで公表していますのでということですが、あまり金額的なことが載っていなかったのも、参考にならないという感じがしました。りあんは詳細な内容を全部載せると膨大な資料になってしまうので、直接聞いていただければ、ある程度の回答はできますということでした。

食事はどうなっていますかとお聞きしましたが、食事は今、施設内で作るのではなくて、宅配が多いとのことでした。

参加者

ふじみ野市に住んでいて、障がいを抱えている子どもがいる私が感じること

は、グループホームが少ないということです。市内で強度行動障害の状態の方の人数を事前に聞いていますが、回答では認定を受けた方が51人とあります。結構多いという印象を受けましたが、この認定を受けていない子どもや大人も多いのではないのでしょうか。いわゆる周辺の人たちです。また、グループホームに市内で35人がお世話になっていて、県内、他県では41人がお世話になっています。市内以上に他県でお世話になっている人が多い訳ですが、いかがなものかと思いました。

やはり生まれ育った場所で暮らしていけるのが一番いい訳ですが、なかなか上福岡市当時からこういう施設が少なかった。これは推測ですが、やはり他県に援助を申し出るしかなかった、あるいは障がいに関した施設が他県にしかなかったので入ったということだろうと思います。ただ、こういう一つの事例からとって、やはり少ないなと感じています。

ですので、できれば福祉法人に市から働きかけをしていただいてもいいのではと思っております。両親も相当高齢化していますので、グループホームに断られていたり、入れないでいたりする障がい者あるいは障がい児をぜひ救っていただければと思っています。

障がい福祉課も仕事がいっぱいあるとは思いますが、障がいの程度が重い人でも入れるようなグループホームを、あるいは我々育成会が要望している入所施設など、いろいろメニューを多くしていただいて、入所に適する人、あるいはグループホームに適する人がいますので、両親といろいろな対話を進めながら、グループホームなどの建設推進をぜひお願いをしたいと思っています。

市の回答は、ちょっとつれない内容でしたが、ぜひ重度の障がいがある人もグループホームなどの入所施設に入らせていただけるような、そういう施策をぜひ推進していただけたらなと思っています。

我々親が80歳を過ぎたら、相当苦戦するのではないかと思います。ぜひそういった意味からも、我々も、障がい者、障がい児も救っていただけるよう、検討をお願いしたいと思っています。

市長

今のご意見、ご要望ですが、まさに入居できる施設というのは少ない、足りていないというような状況は私どもも認識をしております。これは以前からそうだったというご指摘もございました。実態を調査したわけではないですが、最近では確かに民間の企業が運営するグループホーム等々が増えてきているようです。併せて入間東部福祉会の中でも以前、グループホーム設置に向けて役員会の中でいろいろとご意見をいただいて、それが実現していったということもございます。

ご発言の中に公的ということと社会福祉法人等々ということもございましたけれども、社会福祉法人を名乗っていれば全く問題がないということではないと思います。公的という言葉には、行政がという意味もあるかと思います。冒頭で申し上げたとおり、国の政策上、どうしても官から民へという流れの中で、例えば子どもたちが通う保育所も、公立保育所には一切補助金がでませんが、民間が設置するとかなりの補助金ができます。本市も公的な保育所を幾つか廃止してきましたが、それだけでは実際に保育を求めている人が全然充足しきらなくなります。そこで、公立の保育園を今残しつつ、民間の認可保育園をつくっています。

話を戻しますが、もともとやはり入居できる施設が少ないことは実態として認識はしております。今、お願いという言葉いただきましたが、そのご要望にどの程度、どういう形で応えられるかという、その辺も含めて、我々もご希望に添えるような形に近づけていきたいと思っているところであります。ありがとうございます。

参加者

今日配布された宿泊・居住を見ると、設立から若い、新しい会社が結構多いと感じました。志を持って設立していると思いますが、障がい福祉事業の経験が短いところに対して、子どもを預けるのはちょっと一か八かみたいな感じになるので、障がい福祉事業を推進する上で新しい事業所に入ってきてもらうことも大事だと思いますが、やはりこのふじみ野市で長く障がい福祉をやられている既存の社会福祉法人に限らず、既存の事業予算でグループホームを設立するというような働きかけもあわせて、そういう視点も持っていただけるとありがたいと思います。

参加者

グループホームの統括といいますか、グループホームは何をやっているのか、そういうことが全然見えてこない場合もあると思います。そうすると、保護者は子どもを預けたままで一体大丈夫なのかなと不安になると思います。地域連携推進会議は統括してくれる団体がないということを知ったのですが、そういう団体をつくって質を高めるということはできないのでしょうか。

障がい福祉課長

今、話された地域連携推進会議につきましては、回答の中でも説明はさせていただいていますが、今年度から設置が義務となりました。内容は入所とグループホームに地域の目を入れて、よりよいグループホーム運営をするようにということで、地域の方、利用者、その家族、障がい福祉課のケースワーカーなど、そう

いったメンバーで会議を最低でも一回は設けたり、施設の見学をしたりしています。

外部の目が入ることで、開かれたグループホームの運営ができるという制度です。ただ、この会議はグループホームを運営している法人が考えて行うもので、市が主導で何かを取りまとめたりするようなものではありません。もちろん、私たち職員も会議に参加をいたしますので、何か利用者からグループホームの様子を伺ったり、状況把握もできたりします。また利用者には障がい支援区分の認定の調査などで、3年に1回程度ですが、実際に会ってお話を伺ったりする機会もありますので、市としては、利用者や家族からグループホームの状況などを把握できる機会はあると考えております。

繰り返しになりますが、地域連携推進会議を市が取りまとめるという予定は、今のところございません。

参加者

ありがとうございます。

ただ、やはり取りまとめる人がいたほうが助かります。失礼な言い方かもしれませんが、技術的な指導や助言をきっちりやってもらいたいと思っています。それを市がやっていただけると非常に助かります。例えば障がい者総合相談支援センターがある程度窓口になり、その上部にグループホーム、施設があって、指導とかやっていただくと助かると思いました。

障がい福祉課長

日中支援型のグループホームに関しましては、年に一回、事業所から事業の報告をいただき、評価をしております。地域自立支援協議会の中で報告をいただいて評価もしておりますので、そういったところでは委員の皆様からいろいろご意見、ご質問などを直接事業者が受け、その場で回答する、そういったことも行っております。補足となります。

参加者

以前、ちょうど令和が始まるころに、グループホームふじみ野かがやきが入間東部福祉会で作られたときは、市長には大変お世話になりました。そのときにすごく感じたことは、開所式のときに地域の皆さんがたくさん集まってくれたことです。普通、民間のグループホームですと、周囲の人が何も知らないうちにいつの間にか始まったという感じが多いとのことですが、そのときは市が関わっていたということで市長や近くの民生委員の人とか、自治組織の人とかも来てくれました。市が関わると市民の目がたくさんあるところで開所式が行われて、周りの

人たちにも協力してもらえるので、すごくいい感じがしました。

今お話を伺っていると、そういう施設ができて年にも1回の会議ですと、どんな生活をしているのかわからないと思います。ケースワーカーの方とか障がい者にかかわる方にできるだけ見に行っていて、多くの人の目が届くことで、性暴力や虐待などにつながらずに済むと思いますので、ぜひ障がい者のことをよく知っている方たちに見ていただけるといいと思います。

市の回答を見ると、新規グループホームを開設する際に事前相談があれば応じているということで、随分消極的だなと思いました。グループホームを必要としている方がたくさんいる訳ですから、向こうから何かあったら何とかしますではなくて、もっと積極的に障がい者の住まいを考えていただけたらと思います。ふじみ野で生まれて育って、ふじみ野だったら一人で歩いて散歩もできる、そういう街で暮らしたいと息子も思っていますので、ぜひこれからもよろしくお願いいたします。

参加者

グループホームを増やしていく中で課題があるとすれば、施設コンフリクト、例えばグループホームを建てるのが明らかになると、反対されるということは各地で起こったりします。そういう時に市が指定権者ではないけれども多少関わるといいなと思います。ふじみ野市でグループホームを作ろうと考えている事業者はご相談くださいみたいな形があれば、相談する事業者も増えると思いますので、ふじみ野市はグループホームを増やしたいということがわかるようなPRをしてもいいのかなと思いました。

障がい福祉課長

いいご提案をありがとうございます。もちろん補助金とかそういったものをなしに、どんどん支援ができれば、皆さんも利用者もご家族も選べる選択肢が増えます。これはグループホーム以外でもそうだと思います。ただ、こういった声かけをすることでやみくもに増えてしまう恐れもあります。例えばあまり質のよくない事業者もいます。グループホームは儲かります、オーナー募集みたいなネットの記事を見るとすごく悲しい気持ちになりますし、そういった事業者が増えてほしいとは思っていません。

職員の配置基準をクリアし、しっかりと研修を受けて、重度障がい者の対応や重度以外の方にも寄り添って支援をしていただける、法人、社会福祉法人ではなくてもいいと思いますが、そのような所が増えるとありがたいというのが、担当課の本音です。ですので、周知も実際は難しいかなと思っています。

参加者

市に相談に来てくださいと言われて、お金儲けだけが目的の事業者が相談に行きますでしょうか。コンサルと話して勝手に作ってしまうのではないのでしょうか。ですから、ふじみ野市に相談してくださいと言え、どういう考えの事業者かわかると思いますので、ぜひご検討ください。例えば、知的障がい者がメインのグループホームをつくりたい事業者がいれば、育成会も話し合いに参加するといった取り組みもできるのかなと思います。そういう場所に顔を出す事業者であれば、しっかりとした事業者だと思うので、ご検討いただければ助かります。

参加者

2年前の座談会でも話をさせていただきましたが、今、子どもは富士見特別支援学校の3年生です。2年前は1年生ですね。その際にお話したのは、特別支援学校で、富士見市の多分障がい福祉担当が、将来を踏まえての障がい福祉サービスなどの説明会をやっていて、小学生でも高校生でも学年にかかわらず参加できるのですが、やはり富士見市役所が主体ですから、ふじみ野市に住んでいる私にはなかなか参加しづらい感がありました。

そこで富士見特別支援学校に通っているふじみ野市の市民の方向けに、障がい福祉課で将来の障がい福祉サービスの説明会をやっていただきたいという要望でした。とりあえず今のところ実施はしていないみたいなので、どうなっているのかを聞きたいと思います。

障がい福祉課長

国のサービスに関しては全国統一されているものになるので、富士見市の説明と大きな違いはないと思います。当課でも、県立特別支援学校に通っている保護者の皆さんに対して説明会を年1回開催させていただいていたかと思しますので、例えばその説明会に出席をする希望があれば可能とは思っています。

市長

おっしゃっている意味はわかります。富士見市の特別支援学校は、ご承知のとおり、市立というちょっと特別な形で設立された学校です。

富士見市立の学校ですが、県からの委託も受けながらやっているということもあり、ご提案のように、通っているふじみ野市の子どもたちのために、ふじみ野市が説明会を開催してもいいのではということに関しては私も同感です。

ただし、ふじみ野市から通っている人数は、申し上げるまでもなく、非常に少ない状況です。今、課長が申しましたとおり、制度的には国全体で同一の制度なので、富士見市の障がい福祉課でも、ふじみ野市の子どもがいるからと言ってふ

じみ野市内で説明会を開催するかというと、富士見市側が遠慮をする部分もあるかと思います。例えば、川越市に居住しているが地元の小学校が遠いので、教育事務委託でふじみ野市の学校に来ている子どもがいます。その子どもたちに対しては、やはり川越市の職員が来て説明をするのではなくて、ふじみ野市が設置している学校なので、そこはふじみ野市が責任をもって説明をしています。

参加者

学校に来てくださいという話ではありません。富士見市の特別支援学校に通っている限りは、ふじみ野市が説明会をやるとしても情報として伝わってこないと思います。今後、新しくできる県西南部地域特別支援学校（仮称）と所沢おおぞら特別支援学校、富士見特別支援学校の三校に対して、県立だけ行って話をするのではなく、誰でも参加できる説明会を行い、その資料を各学校に配布してもらえれば、市立に通っていることによる疎外感はなくなると思います。

障がい福祉課長

高等部を卒業する方向けに、障害支援区分の話だとか、18歳以上のサービスの内容に関する話などはさせていただいています。それ以外の年少の方を対象の説明は障がい福祉課では行っていませんが、小学部、中学部の方が利用するサービスなどを聞きたい、そういう情報も欲しいということですのでよろしいでしょうか。

参加者

中学生ぐらいからショートステイを経験しているという話も聞いたので、そういう未成年、児童の間でも使える情報が欲しいということです。情報提供があれば、保護者としては早めにチャレンジすることもいいというようなことにつながると思うので、卒業後だけの話ではありません。

司会

どういう子どもたちがいるかという情報は学校教育課で把握されているので、障がい福祉課と学校教育課が連携して案内をしていただけるとすごく助かります。両課が連携すれば、多種多彩な取り組みができると思いますので、よろしくお願いいたします。

参加者

私の子どもは高校へ行っていて、中学校とは関係ありませんが、市内のある中学校の特別支援学級では13人中6人が不登校になっているという話を他のお母さんたちから聞いて、結構割合が高いと思いました。ふじみ野市では、支援学

級の不登校率を学校ごとに把握されているのでしょうか。

もし把握されていて、率が高いところがあれば、それについてどう考えているのかお伺いできればと思います。

学校教育課長

ご質問ありがとうございます。不登校児童・生徒の数については、特別支援学級、通常学級に関係なく、小・中学校から毎月、数字や実態などの様子も含めて報告を受けています。継続的に休んでいたり、断片的な休みが重なり、結果的に不登校となった児童・生徒も含めて、毎月把握した上で、各学校の校長、教頭に実際の様子だったり、さらにもう少し詳しい話を聞いたり、場合によっては教育委員会から指導助言を行っています。さらに、余りにも状況の改善が見られないようであれば、実際に学校に訪問し、学校の管理職から聞き取りを行って、その上で様子を見たり、先生たちへアドバイスをしたりしております。

参加者

ありがとうございます。いろいろ先生たちに指導をいただいているということは理解いたしました。一方、保護者同士で話をしていると、特別支援学級の先生たちが、もちろん頑張っているとは思いますが、障害児の教育に対する専門的な知識が足りないのではないかという声を聞きます。

ですから、特別支援学校教諭免許状を持っている先生が望ましいと思っています。古いデータですが、10年ぐらい前の文部科学省のデータだと、中学校の特別支援学級の先生で、この免許を持っている割合は27%でした。ふじみ野市の場合は、特別支援学級の先生がどれぐらいの割合で特別支援学校教諭免許状を取得しているとかの発表をしていますか。

学校教育課長

申し訳ありません。本日は数字を持ち合わせておりません。

特別支援学級の担任は小学校または中学校、もしくは両方の免許を持っています。埼玉県の場合、初めて特別支援学級を担任する教員については、まず県の特別支援教育の研修に参加し、これまでの通常学級と違う特別支援の手だてを勉強することになっています。もちろん市でも特別支援教育の研修会は実施しておりますし、最近では特別支援教育のニーズが高まってきていますので、教員もそういったところは非常によくわかっていて、自分から免許を取りたいという申し出も近年はかなり増えてきています。もちろん学校の方から声かけをして取りに行くことも同様に増えてきています。

確かにまだ勉強不十分な教員もいるとは思いますが、特別支援教育の手

だては本当に必要であり、そういったことを学んだ教員が、通常学級の子どもたちも含めて指導に生かせると思っていますので、積極的に免許をとることについて進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

参加者

障がい福祉課のカウンターですが、あの場所で子どもの困ったことなどの話をするのは、プライバシーなことも周りに聞こえてしまって話しづらいと思っています。私の場合はケースワーカーの人にすごく気を使っただいて、会議室をとっていただいたり、周りの人に聞こえないような場所で相談を受けたりしてくれるのですごく助かっていますが、なかなかそういうことをお願いできる人ばかりじゃないと思います。実際、カウンターでこんな話をしていたという話も結構聞きます。やはりプライバシーが漏れないような、そういう手立てはないでしょうか。ややこしい話でも、ケースワーカーの方にお話しできるような体制があれば、詳しい子どもの話とか困っていることとかの相談もうまくできると思います。ぜひプライバシーが漏れないような相談ができる体制をつくっていただきたいと思います。お願いします。

障がい福祉課長

ご意見ありがとうございます。障がい福祉課のカウンターは確かにオープンな状態です。少し隣のカウンターとは距離は置いているものの、やはり声は聞こえてしまう恐れがあることは私たちも承知しております。そのため、声を潜めて話したり、ケースワーカーがその場に応じた対応させていただいたりしていると思います。カウンターの一番奥にパーテーションがあり、そこでお話を伺うこともできますし、別室を用意することも可能ですので、遠慮なく申し出てください。よろしく願いいたします。

参加者

またグループホームの話に戻りますが、先ほど障がい福祉課長がグループホームで儲けるような話があつて非常に残念に思っているという話がありましたが、実は数年前、グループホームを建てようと考えている人が説明会を開くということで、面白半分ではないですが、どんな人が来るのかと思って参加したことがあります。そのときの最初の一言が忘れられません。「皆さん、障がい者は怖くないです」こういう言葉です。その後は自分がどんなにグループホームをあちこちにつくって成功したという自慢話、そしてこれだけ利益が出ています。そういう話ばかりでした。この説明会に参加して非常に怖くなりました。最近、ふじみ野市内でも民間の会社がグループホームを作っていて、民間会社ですから当然です

が、利益追求をしていくわけです。利益が出なければどこかを削ると思いますが、我々の目で見えないところですから勧められるのではないかと心配をしています。

例えばグループホームの申請認可の際、例えばふじみ野市が県とは別に何か高いハードルを設けるようなことはできないでしょうか。先ほど地域連携推進会議の話がありましたが、あくまでもグループホームが主催で行うもので、言葉は悪いですが、自分たちで好きなようにできてしまうのではないのでしょうか。そうではなくて、ふじみ野市にグループホームを建てるのは他の自治体に比べてハードルが高いと思わせることができれば、結果としてふじみ野市のグループホームに預ければ安心だとか、そう思われるのではないのでしょうか。もしそういうことが可能であれば、私も安心できます。私のあくまでも個人的な意見です。

市長

おっしゃられている話はまさにそのとおりという気がいたします。

今の話のとおりで、申請をして県の認可になりますが、当然設置される自治体として意見書をつけることができます。グループホームを県に申請するのであれば、この基準を満たさなければふじみ野市としては認められませんというのも一つの方策だと思います。

逆に言うと、ふじみ野市に作るにはハードルが高いから、他の自治体のほうが楽に許可が下りるという話になってしまい、ふじみ野市にはグループホームが建たないという可能性もあります。悩みどころではありますが、趣旨は重々わかります。ふじみ野市に作るのなら、これだけは目指さなきゃだめだということは、大事なことだと思いますので、今後に向けて考えていきたいと思っています。

参加者

今年の8月から、市で成年後見人等の送付先変更の一括申請がスタートしました。どうしても漏れがあったりします。こういうことで負担軽減がされて、漏れがなくなるというのは素晴らしいと思います。親や家族が成年後見になることもあると思うので、煩雑な事務を軽減していただくことはすごくありがたいと思っています。

会長

他にありますか。市長と話す機会はそんなに多くはないと思いますので、なんでもどうぞ。

市長

先ほどグループホームふじみ野かがやきを作ったときは周辺地域の人たちが

来てくれたという話がありましたが、入間東部福祉会が運営しておりますので、我々も責任を持って、近隣にはきちっと説明をして進めていくようにしております。精神障がいの方々が活動場所に困っていて、私は旧大井保健センターの建物を使っていただくことにしました。そのときに職員たちに話をしたのが、そういう目的で施設として利用しますので、ご理解くださいと周辺の皆さんに伝えるようにということでした。仮に地域で受け入れがたい迷惑施設のようになってしまったら元も子もありません。周りの人たちがしっかり理解して、そこを利用する子どもたち、成人している方、親の会の方々に温かい手を差し伸べるようにならないといけないと考えています。ですから、残念なのは、民間が作ったグループホームで、周辺の人たちはそういう施設ができるということすら知らなかったとか、それでは全く意味がないと思います。

参加者

今度、ふじみ野市内に特別支援学校ができますが、以前の座談会で、県立所沢おおぞら特別支援学校に行っている保護者から、PTAとか役員会があるときに移動の手段がないという話があったと思います。当時はコロナ禍でスクールバスの利用ができないということで、車も持っていない人たちはすごい大変な思いをされたと思います。教育委員会では保護者の運転免許保有の有無を把握されていますでしょうか。

今ここに理事のメンバーの子どもたちは卒業しているので、そういう課題はありませんが、スクールバスが使えなくてすごく大変ですという話があったので、教育委員会も大変なのは承知しておりますが、ふじみ野市から通学している保護者の移動手段がないという状況をご理解いただき、教育委員会の空きスペースで保護者会を代替えで開き、そこに県立所沢おおぞら特別支援学校の先生に来てもらえれば、保護者もたいへん助かるのかなと思いました。親としての意見としていかがでしょうか。

学校教育課長

貴重なご意見ありがとうございます。保護者の自動車あるいは免許証の保有有無については把握できていないのですが、そういう対応を望まれている人がいるだろうということは想像に難くありません。ですが、相手方もあることです。そもそも来てくれるのかどうかも含めて、県立所沢おおぞら特別支援学校も自分の学校の中で済ませるというのが基本になると思います。そういったご意見があるということは伝えさせていただきたいと思います。

参加者

特別支援学校の先生って結構熱い気持ちを持ってやってくださる方がいるので、全員とは言いませんが、やっていただけるのかなと思った次第です。

参加者

娘が自立支援センターたんぽぽに通っています。もう既に40歳になるので、グループホームも検討したいと思っています。私たちの健康もいつ悪くなってしまうかわからないので、川越市のグループホームを見学させていただきました。そこは、先ほど市長もおっしゃっていたように、地域性があって、地域の方との密接な関係で、とてもいい雰囲気の歴史があるところでした。その地域に溶け込んだ温かいグループホームを目指すということはとても大変だとは思いますが、自分の身内や仲間がそこに入って生活するのであれば、親としては力を惜しまずに頑張りたいと思いますので、やはりご協力をお願いしたいと思います。お金がとてもかかるということもわかりますし、賃金とかとても大変なことも考えていかなくはいけないんだろうと頭の隅にいつもありますが、私一人ではもちろんできないことなので、みんなで話し合う機会がやはり必要だと感じました。

それから、先ほど窓口のことで意見がありましたが、私も障がい福祉課に限らず、ほかの窓口でも、例えば生活保護の申請など他の人に聞かれてほしくないようなことで行かれる方もたくさんいると思いますので、検討していただけたらうれしいなと思います。

参加者

本日はありがとうございます。私は県立所沢おおぞら特別支援学校に通っている高校2年生の子どもを持つ親ですが、小学校、中学校で支援学級にお世話になりました。

去年も話題にさせていただいたのですが、子どもが中学生のころ、結構私としてもすごく精神的につらいというか、とても苦勞をしたと感じているところです。お母さんたちと会話をする中で、先ほども意見がありましたが、中学校で13人生徒がいる中で6人が不登校ということです。私の子どもの世代は4人のうち1人が不登校でした。その下の世代も6人いて、3人不登校ということが実際にありました。お母さんたちは、子どもたちに何かあるたびにすごく学校とのやりとりをしているのですが、結果として、不登校にならざるを得なかったようです。中学時代の支援学級でとてもつらい思いをするお母さんが多いということで、これからより多い支援を検討していただきたいと思います。

お母さんたちとのやり取りで、こういう支援があったらいいという話が出てい

るので、この場で回答いただきたいということではありませんが、今後ぜひ検討していただきたいということで話します。

支援学級に専門的な知識のある先生を配置してほしい。これは、そういう資格があるという話でしたが、現状ではその資格を持っていない先生も多くいると思いますので、複数人で何校かを巡回してくださる感じのシステムにしてほしいなという意見があります。

学校カウンセラーの配置が充実していてありがたいと思いますが、専門のカウンセラー、コーディネーターなど学校カウンセラーとの面談のように、定期的に面談できる機会をつくってほしい。

一度受け入れた生徒は責任を持ってほしい、責任を持って面倒を見てほしいという意見です。学校名や具体的内容は伏せますが、入学したけれども、「この子はちょっとわからない、言ってもだめだから」と言って、何時間も1人にしてしまうという対応をされたお母さんからの意見です。

親が気になるところ、強化学習以外でも個別に観点をつくってほしいという意見がありました。無理かもしれないが、WISC（ウィスク＝児童向けウェクスラー式知能検査）の活用について検討してほしいという意見もありました。そして、「WISCって何、WISCの初歩的な読み取り方がわからない、放課後等デイサービスって何」という先生もいたので、そういう先生がいないようにお願いしたいという意見もありました。

不登校の子どもに対して、断片的ではなくて、毎日や一日おきなど継続的に支援をしてほしいという意見がありました。今はマイクロソフトのT e a m sなどで連絡を取るなど、昔に比べれば手段や方法が増えたと思うので、そういったことを検討してほしいと意見が出ました。

あとはできたら、公表範囲は慎重になると思いますが、建設的に使える評価を公表してほしいという意見がありました。

いろいろと言わせていただきましたが、中学校のお母さんたちがすごく支援学級で苦しい思いをしているので、ぜひ検討していただければと思います。

ありがとうございます。

学校教育課長

いろいろご要望をいただきありがとうございます。中学校でつらい思いをしている保護者がいるという話を聞いて、私ももっと教育委員会として頑張らなくてはならないという思いを強くしました。最後のご要望で、建設的に活用できる評価を公表してほしいという話がありましたが、この評価というのはどういったものを指しているのでしょうか。

参加者

私の意見というわけではないのですが、恐らく学校評価アンケートみたいなことを毎年していると思いますが、その中で支援学級に特化した項目をとという意味なのかなと思います。

学校教育課長

わかりました。この評価は個人情報にかかわるような箇所もありますので、今現在そういった項目を質問している学校があるかどうかは把握できていません。また、そういったものを聞いたりだとか、実施したりしている他の自治体もあまりないのではないかと考えています。ただ、学校に通っている保護者の意見を聞いて、学校教育に生かしていくということは、校長の責任です。今回こういった意見を聞きましたので、検討して、考慮して、取り入れてフィードバックしていく、そういったことができたらいと思っています。教育委員会として各学校に話をしていきたいと思っています。

市長

他のお母さんたちの声を聞かせていただいた中で、この子はちょっとだめだから一人にされてしまったという話がありました。その子がずっと一人で居つづけたのかどうか、そのお母さんに詳しい話を聞かなくてはわかりませんが、もしそうだとしたら、それはとても残念なことだったと思います。

私も毎年学校訪問させていただいています。私の学校訪問というのは各クラス全部に行って、校長先生や担任の先生方には申し訳ないですが、授業参観のように後ろからではなくて、先生が立っている側の前の扉から入って、教室の端から子どもたち一人一人の表情などを見させてもらっています。

もちろん特別支援学級にも行きます。お子さんの数は少ないですが、一人一人に対してどんな状況かというのを見させてもらっています。ある学校に行ったときに、通常学級の子どもでしたが、不登校気味で、ようやく学校まで来られるようになったものの、教室に入れないので、必ず誰か先生が付いて、教頭先生が主に付いているようですが、特別教室で過ごしていました。その部屋には一番後ろのロッカーの上に電車のペーパークラフトがいっぱい並んでいて、そのペーパークラフトを教頭先生は毎日朝から夕方までその子に寄り添ってやっているということを校長先生から伺いました。市としては、通常学級にしても特別支援学級にしても介助員をつけて、少しでもサポート体制をとれるように配慮はしています。今聞いた話というのは、本当に現場の声ですので、非常に大事なことだと思います。お伝えをいただいてありがたかったです。今、学校教育の方でもそういう声を大事にしながら、これからも取り組みを進めていきたいと思

います。

司会

ありがとうございました。そろそろ時間も過ぎておりますので、この辺でふれあい座談会を終了とさせていただきたいと思います。今日はありがとうございました。

